

護持

護持 (月刊)
 発行所
 本派本願寺
 ハワイ別院
 1727 Pali Highway,
 Honolulu, HI 96813
 Tel: (808) 536-7044
 Webpage:
 hawaiietsuin.org



秋季お彼岸に寄せて

初瀬部唯可

慈光照護のもと、皆さま

まにおかれましてはお健やかに
 にお過ごしのことと存じます。
 九月七日は、ハワイ別院
 において秋季彼岸法要がお勤
 まりになります。お彼岸の季節は、
 忙しい日々々の生活からちよつと立ち
 止まり、自分の人生について

て考える良い縁であり
 ます。また、過行く日々の
 速さに気づくと、この世で
 の自分の命の短さを思わ
 ずにはいられません。

見たことがある方もいら
 つしやるかもしれないので
 すが、ハワイ別院には、御
 本尊の前に大きな香炉が置
 かれてあります。よく見れ
 ば、その香炉には仏教の

深いみ教えが、静かに、そ
 してはつきりと示されてい
 ます。

香炉をよく見ると、その
 両側には二匹の龍が彫ら
 れています。一方の龍は
 口を開けており、もう一方
 の龍は口を閉じていま
 す。口を開けた龍は
 「ア」と声を発し、口を閉
 じた龍は「フーン」と発

しているそうです。この
 ア・フーン(阿吽)は、始
 まりと終わりを表してい
 るそうです。私たちがこ
 の世に生まれ出るとき、大
 きな声で最初の産声をあげ
 てうまれてきます。しか
 し、命が終わるとき息が
 止まりこの世を去っていく
 のです。

この阿吽の二匹の龍の
 間に線香を横たえるたび
 に、私は人間の命の短
 さを思わずにいられます
 ン。私たちの人生は一本
 の線香のようなもので、
 「阿」と「吽」の間で、
 ほんのつかの間の間、命
 をいただいで生きています
 です。火のついたお線香は
 静かに燃え続けて、やがて

燃え尽き白い灰になりま
 す。命もまた同じで、日
 々静かに、しかし確実に過
 行くのです。そして今吸い
 込んだ息が、私たちが呼
 吸できる最後の呼吸でな
 いとはだれも言い切れない
 のです。

お彼岸の季節は、私た
 ちに人生のはかなさを再認
 識させてくれ、無常という
 厳粛な教えを改めて私
 たちに示してくれます。し
 かしそれは、決して悲しみ
 だけをもたらしものではな
 く、命のはかなさを知
 り、実感することで、私
 たちは今いただいでいる
 命のありがたさに気がつ
 かされるのです。

南無阿弥陀仏